

武漢コロナウィルスはいつ収束するのか？

今回は日米台関係研究所理事の Dr. 林建良（現役の台湾医師）のコメントを参考としています。

「武漢コロナウィルス」は、新型コロナウィルスと言うよりも明確な命名だと思えます。なぜならこれまでも毎年新たなコロナウィルスが出現しているからです。

さて、2002～3年冬に中国で流行した Sars は 6 か月間で突然消滅しています。暑さに弱かったという説もありますが、今回の「武漢コロナウィルス」は常夏のタイやシンガポールでも蔓延していますので、夏までに収束することが期待できません。

収束の3つのシナリオとは？

- ① **半年**：Sars と同様で一番楽観的観測。
- ② **2年**：可能性が最も高い。ワクチンの開発に要する期間が最低2年かかるため。
- ③ **常態化**：一番、最悪の可能性。永遠に続く。毎年のインフルエンザや風邪と同様に繰り返して流行する。

C型肝炎ウィルスは抗体ができてても身体に一生居続けて悪さをしています。また**エイズ**も同様で共に30年以上経過していますが、まだ有効なワクチンはありません。

収束の条件は？

- ① **徹底的隔離**：台湾がうまくいっている。
 1. 政治的強権力
 2. 国民の順法性（行政との信頼関係が不可欠）
 3. 情報の透明性
- ② **ワクチンの開発**：伝染の拡大を抑える。但し、開発から効果が出るまでに2年かかる。

フェーズ1. 安全性 3か月以上
フェーズ2. 有効性 6か月以上
フェーズ3. 安全性かつ有効性 6か月以上

データチェック：数か月～1年

ワクチンの生産：数か月

全員接種できるまで：1か月

抗体出現：2週間（ピークは1～2か月）

- ③ **治療薬の開発**：難しい、10年以上かかる。

突然変異に対応しなければならない。RNA ウィルスは変異するために、現在でも一般の風邪（コロナウィルス）に対するワクチンがない。

人類はこれまでペストやスペイン風邪（インフルエンザ）などパンデミックな感染症と戦ってきており、今回の「武漢コロナウィルス」もいつかは収束するでしょう。

しかし、経済界に及ぼす影響は計り知れないですね。これまでの常識・習慣が常識でなくなり、新しい価値観が生まれてくると思います。「武漢コロナウィルス」で生き延びていく業種、落ちこぼれていく業種など明暗が分かれていくのでしょうか。

とに角、我々が率先してやるべきことは、**ソーシャルディスタンス**を保つこと、つまり**3密（密閉・密集・密接）**を守ることです。飛沫感染を防げます。ウィルスを伝搬させない、それだけです。（たまなは）

